

湘語蔡橋方言の語彙に関する記述的研究 —類型論的視点から—

王 振宇

アブストラクト

本稿は湘語蔡橋方言の語彙の特色について接辞、名詞、形容詞を中心に記述するものである。蔡橋方言は中国七大漢語方言の一つ、湘語の下位方言であり、語彙の面において北京語などの北方方言とは大きく異なった特色を持っている。たとえば、性別修飾成分の位置が動物名称の前か後ろかは漢語方言の地理的分布をみると、南北で大きく二分されている。一般的に、「おすの」、「めすの」にあたる形態素が南方方言では動物名称のあとに来るのに対して、北方方言では動物名称の前に置かれる(橋本萬太郎(1978)参照)。蔡橋方言では動物の性別を修飾する形態素“公”、“牯”、“娘”、“婆”が接尾詞として動物名詞の後ろにつく。この特徴から、蔡橋方言が典型的な南方方言の特徴を持っていることが分かる。一方、蔡橋方言は重畳形の名詞を数多く持っている点で他の湘方言とは異なっており、北方方言の西南官話に似ている面があるといえる。

キーワード：類型論、漢語方言、湘語、蔡橋方言、語彙

0. はじめに

本稿は湘語蔡橋方言を対象に記述するものである。湘語は中国の七大方言の一つであり、主に湖南省、及び広西の一部で使われ、使用人口がおよそ3,438万人である(鮑厚星・陳暉(2005)参照)。邵陽県は中国湖南省の西南部にあり、邵陽市に属する。総面積は1996.89平方km、22の鎮・郷、631の村からなっている。『邵陽県統計年鑑・2006』によると、2005年現在の常住人口は976,750人である。蔡橋郷は邵陽県の西部に位置し、2002年現在は21の行政村を有しており、面積は69.92平方km、人口は26,300人である。本論文で使用する蔡橋方言のデータは筆者のフィールド調査で得られたものである。蔡橋方言調査の詳細、蔡橋方言の音韻特徴などについては王振宇(2008)(2009)を参照されたい。本稿は湘語蔡橋方言の接辞、名詞、形容詞に絞って考察していく。

1. 単音節語の複音節化

中国語の語彙には単音節から複音節に移行する傾向がみられるとの指摘がある。この点については、表1に挙げた各時代の文献における複音節語数の変化からも窺える。

表1 中国語における複音節語の増加傾向

文献	全文字数	複音節語の数	統計数字の来源
左伝	20万字	284個	陈克炯 1978
論衡	21万字	2,000個	程湘清 1992a
敦煌变文集	27万字	4,347個	程湘清 1992b

(李如龙(2007)をもとに作成)

中国語の複音節化を引き起こす誘因の一つは音韻構造の単純化であるとされている。

韻構成が単純化するに伴って、単音節語の中には、漸くその独立性を失って複音化方向にすすみ、複音化によって、語それ自身の独立性を補強せざるをえなくなった。

(香坂順一(1967))

複音節化の度合は各漢語方言によって大きく相違している。大まかに言えば、北方官話は東南諸方言より複音節化の

度合いが大きい。東南諸方言のうち、湘語は粵語、閩語などより進んでいる (表2参照)。

表2 漢語方言における複音節化の度合いの相違

北京語	東南方言			
	湘語		粵語	閩語
	長沙	双峰	広州	福州
桃儿	桃子	桃子	桃	桃
叶子	叶子	叶子	叶	(叶) 叶
帽子	帽子	帽子	帽	帽
柱子	柱子	柱子	柱	柱
桌子	桌子	桌子	檯	桌
繩子	繩子/索子	繩子/索子	繩/索	索
星星	星子	星子	星	星

(罗昕如 (2006) をもとに作成)

蔡橋方言においても語彙の複音節化が進んでいる。たとえば、上掲された語彙は蔡橋方言で“桃子”、“叶叶”、“帽子”、“柱子”、“桌桌”、“索索”、“星星”のような2音節語となっている。一方、表3のように、北京語では2音節となっているにもかかわらず、蔡橋方言においては依然単音節語として現れる語彙も多く存在している。

表3 北京語の2音節語に相当する蔡橋方言の単音節語

北京語	蔡橋方言	日本語における意味
虫子	虫 [ɬiəŋ ¹¹]	虫
被子	被 [bi ⁵³]	布団
凳子	凳 [tei ³⁵]	いす
轿子	轿 [ɬiəu ¹³]	輿
锯子	锯 [tʂɿ ³⁵]	のこぎり
裙子	裙 [ɬyei ¹¹]	スカート
勺子	勺 [ciə ³⁵] / 勺勺 [ciə ²² ciə ⁵]	ひしゃく
虱子	虱 [sie ⁵⁵]	しらみ
梳子	梳 [su ⁵⁵]	くし
鸭子	鸭 [a ⁵⁵]	かも
尺子	尺 [tʂia ⁵⁵]	尺
池塘	塘 [daŋ ¹¹]	水たまり
秧苗	秧 [iaŋ ⁵⁵]	イネの苗
客人	客 [kʰa ⁵⁵]	お客

複音節化の過程においては接辞や品詞の重量などが重要な文法的役割を果たすことが知られている。このことに鑑み、以下では蔡橋方言の接辞、名詞の重量について取り上げる。

2. 蔡橋方言の接辞

蔡橋方言の接辞を「接頭辞」、「接中辞」、「接尾辞」の3種類に分けて考察する。

2.1 接頭辞

本節では名詞の接頭辞“老”、動詞の接頭辞“打”を取り上げて考察する。蔡橋方言の接頭辞“老”〔nəu⁵³〕には次のような三つの用法がある。

- 兄弟間の長幼順序を表す。たとえば、“老大”〔nəu⁵³ da¹³〕（兄弟中の一番目）、“老二”〔nəu⁵³ e⁵⁵〕（兄弟中の二番目）、“老三”〔nəu⁵³ sa⁵⁵〕（兄弟中の三番目）など。
- 一部の動物名称の前に接辞する。この場合、親愛の意味は含まれておらず、単なる語構成の成分である。たとえば、“老鼠”〔nəu⁵⁵ ʂl⁵〕（ねずみ）、“老虫”〔nəu⁵⁵ tɕiəŋ⁵〕（虎）、“老鹰”〔nəu⁵³ iei⁵⁵〕（鷹）など。
- 苗字ではなく、名前の一文字や親族名称の前につけて、同輩や後輩に対する親愛呼称として用いられる。たとえば、“王小剛”という人に対し“老剛”〔nəu⁵³ kaŋ⁵⁵〕、“李健”という人には“老健”〔nəu⁵³ tɕi¹³〕と呼びかける。また、甥っ子、姪っ子には“老侄”〔nəu⁵³ dʒl¹³〕、兄には“老兄”〔nəu⁵³ ciəŋ⁵⁵〕、弟には“老弟”〔nəu⁵⁵ di⁵〕と呼びかける。

諸用法のうち、a、bは北京語の接頭辞“老”と同じであるが、cは北京語の“老”と異なっている。北京語では一般に、“老”を名前にではなく、苗字の前に付けて親愛呼称として使う。たとえば、“老張”〔nəu⁵³ tɕiaŋ⁵⁵〕（張さん）、“老李”〔nəu⁵³ li⁵⁵〕（李さん）など。また、北京語の“老”は同輩に対して使われることがあるが、後輩には一般に使われないという点においても蔡橋方言と異なっている。

親族名称の接頭辞は“老”のほかには“阿”がある。たとえば、“阿叔”〔a⁵⁵ cy⁵⁵〕（父方の叔父さん）、“阿舅”〔a⁵⁵ tɕy²¹〕（妻の兄弟）である。ただし、“阿”を用いるのはこの二語だけであり、造語力を欠いている。他方言からの借用ではないかと思われる。

次に動詞の接頭辞“打”について見る。“打”は本来「うつ」の意味を表す動詞であるが、多くの現代漢語方言では文法化され、接頭辞となっている。たとえば、北京語の“打算”（～する予定である）、“打听”（尋ねる）、“打点”（支度する）などの“打”である。蔡橋方言の場合、“打”は“打門”（扉を叩く）、“打桌子”（窓を叩く）などのように動詞として使用されると同時に、動詞の接頭辞としても働いている。表4に挙げたのは北京語が持たず、蔡橋方言に特有の接頭辞“打”を用いた語である。

表4 蔡橋方言における接頭辞“打”を用いた語

蔡橋方言	日本語における意味	蔡橋方言	日本語における意味
打止	終わる	打发	喜捨する
打讓	どもる	打租	苦勞に耐える
打跪	両足がくたくたの状態になる	打躲躲	逃避する

接頭辞“打”の発達は宋代以降のことである。また、接頭辞として“虚化”（文法化）される前に、“打”は具体的な

[これらのりんごはすべて腐ってしまった。] (这些苹果个个都坏了。)

- (3) 你 个倒个 寨口 打 去。
 あなた 一つ一つ 山寨 叩く いく

[あそこの山寨を一つ一つ叩いていきなさい。] (你一个你一个山寨地敲过去。)

2.3 接尾辞

蔡橋方言の接尾辞には“子” ([tsɿ²¹])、“崽” ([tsa²¹])、“家” ([ka²¹])、“把” ([pa²¹])、“首” ([cy²¹]) などがある。これらのうち、“子” ([tsɿ²¹])、“家” ([ka²¹]) は名詞の後ろに、“首” ([cy²¹]) は動詞の後ろに、“崽” ([tsa²¹]) は数量詞や形容詞の後ろに、“里” は状態形容詞にそれぞれ接辞するものである。

2.3.1 “子”類接尾辞

“子”と“儿”は漢語方言で広範にわたって使われている接尾辞である。また、漢語方言のうち、湘語の“子”が最も発達しているといわれている。表6は罗昕如(2006)が『汉语方言词汇(第二版)』に挙げた諸方言の“子”の出現数を方言別に比較した統計である。湘語における“子”の使用は他方言に比べ、圧倒的に多いことが分かる。

表6 『汉语方言词汇(第二版)』における方言別の“子”の出現数

方言地点		“子”の発音	出現数
北京官話	北京	tsɿ	144
西南官話	武漢	tsɿ	179
吳語	蘇州	tsɿ	72
湘語	長沙	tsɿ	268
	双峰	tsɿ	215
贛語	南昌	tsɿ	182
粵語	広州	ʃi	8
閩語	福州	tsi	5

以下に、蔡橋方言では“子”を用いるが、北京官話ではそれを用いない語彙を少し挙げる。蔡橋方言では、接尾辞“子” ([tsɿ²¹]) は小さいものや身近な道具などにつくことが多い。

表7 蔡橋方言で“子”を用いた場合と北京語の対照

蔡橋方言	北京官話	日本語の意味
舌子 [ciɛ ²² tsɿ ⁶]	舌头	舌
嘴子 [tsɿ ⁵³ tsɿ ²¹]	嘴巴	口
腰子 [iəu ⁵⁵ tsɿ ²¹]	腰	腰
皮子 [bi ¹¹ tsɿ ²¹]	皮儿	皮
謎子 [mei ³⁵ tsɿ ²¹]	谜语	謎々

星子 [siaŋ ⁵⁵ tsɿ ²¹]	星星	星
老鼠子 [nəu ⁵⁵ ʂ ⁵ tsɿ ²¹]	老鼠	ねずみ
奶蚊子 [nā ⁵⁵ ŋ ⁵ tsɿ ²¹]	蚂蚁	蟻
麻雀子 [ma ¹¹ ts ^h y ⁵ tsɿ ²¹]	麻雀	雀
信壳子 [sei ³⁵ k ^h ə ²¹ tsɿ ²¹]	信封	封筒
草帽子 [ts ^h əu ⁵⁵ məu ⁵ tsɿ ²¹]	草帽	麦わら帽子
秤杆子 [t ^h ei ¹³ kā ²¹ tsɿ ²¹]	秤杆	竿秤りの竿

ただし、同じ湘語の下位方言にもかかわらず、蔡橋方言は長沙方言に比べ、接尾辞“子”がそれほど発達していない。特に表8のような時間や親族名称を表す名詞は、長沙方言で“子”が付くのに対し、蔡橋方言では“子”が付かない。

表8 長沙方言で“子”を用いた場合と蔡橋方言の対照

長沙方言	蔡橋方言		日本語の意味
	語形	発音	
夜间子	夜家	ia ⁵⁵ ka ⁵	夜
年年子	年年	ŋi ¹¹ ŋi ²¹	毎年
姑子	娘娘	ŋiaŋ ⁵⁵ ŋiaŋ ⁵	父親の姉妹
姨子	姨娘	i ¹¹ ŋiaŋ ²¹	母親の妹
蚕子	蚕虫	dza ¹¹ iaŋ ²¹	蚕
虾子	虾公	xə ⁵⁵ kəŋ ⁵	えび
蜘蛛子	播丝	po ⁵⁵ sɿ ⁵	蜘蛛
大蒜子	大蒜	da ¹¹ sū ⁵	にんにく
香气子	香气	ɕiaŋ ⁵⁵ t ^h i ⁵	香り
大人子	大人	da ¹³ ŋ ²¹	おとな

(長沙方言は鮑厚星ほか (1999) より引用)

2.3.2 “崽”類接尾辞

“崽”は湘方言においてかなり古い歴史を持っている形態素である。楊雄著『方言』には“崽者、子也。湘沅之会凡言是子者谓之崽、若东齐言子矣。”といった記述がある。つまり、湘沅（現湖南省辺り）の“崽”が東齊（現山東省辺り）の“子”に相当するという意味である。

現在、多くの湘方言は「息子」のことを“崽”と呼んでいる。さらに、蔡橋方言を含め、一部の湘方言では、“崽”は「息子」の意味を持つと同時に、量の少ないことや程度の低いことなどの「指小性」を表す接尾辞の役割を帯びるにいたっている。

蔡橋方言では、接尾辞の“崽”〔tʂa²¹〕は量詞や状態形容詞などに後接することができる。

a. 時間量詞/数量詞+“崽”

- (4) 兩三日崽 (二三日ぐらい)
- (5) 一兩年崽 (一二年間ぐらい)
- (6) 一下崽 (暫らく); 等一下崽 (ちょっとだけ待って)
- (7) 兩三只崽 (二三個ぐらい)
- (8) 百把斤崽 (百キロぐらい)

b. 状態形容詞+“崽”

- (9) 没好大崽 (大きくない)
- (10) 滴滴崽 (少し)
- (11) 抹抹崽 (小さい)

c. 状態形容詞+語尾+“崽”

状態形容詞が述語や連述修飾語となる場合、語尾“里”を伴う。この場合、「崽」は語尾の後ろにつくことになる。

- (12) 麻麻里崽 (すこしまだらの様だ)
- (13) 轻冒里崽 (やさしく)

“崽”は次のような時間量・動作量の多いことや程度の高いことを表す語には後接できない。

- (14) *蛮多日崽 (とても多くの日数)
- (15) *等刮蛮久崽 (とても長く待った)
- (16) *蛮大巴大崽 (とても大きい)

以上、“子”、“崽”はともに蔡橋方言において「指小性」を表す接尾辞として働く。ただし、両者は接辞する語根の品詞性が異なっていることから、互いに相補的な文法機能を担っていることが分かる。

表9 蔡橋方言における指小性の接尾辞と前置成分

前置成分	～子	～崽
名詞 (句)	○	×
量詞、状態形容詞 (句)	×	○

ところで、蔡橋方言における接尾辞“子”は、長沙など他の湘語下位方言にくらべて決して発達しているとは言えず、それらの方言における“子”語彙には蔡橋方言の重疊形名詞が対応している場合が多い。

2.3.3 “家”類接尾辞

接尾辞“家”〔ka²¹〕は表10のように人称名詞と時間名詞につくことができる。

表10 蔡橋方言における接尾辞“家”

語幹	蔡橋方言			北京官話	日本語
	語形	発音	語尾の意味		
人 称 名 詞	老人家	nəu ⁵⁵ ɲ ⁵ ka ²¹	身分	老人	年寄り
	后生家	zy ⁵³ sei ²¹ ka ²¹	身分	后生	若者
	男人家	nā ¹¹ ɲ ²¹ ka ²¹	身分	男人	成年男性
	妇人家	vɯ ¹³ ɲ ²¹ ka ²¹	身分	女人	成年女性
	妹子家	ma ³⁵ tsɿ ²¹ ka ²¹	身分	女孩儿	若年女性
	伢子家	ɲa ¹¹ tsɿ ²¹ ka ²¹	身分	男孩儿	若年男性
	兄弟家	ciəŋ ⁵⁵ di ⁵ ka ²¹	人間関係	兄弟俩	兄弟ふたり
	姊妹家	tsɿ ⁵⁵ ma ⁵ ka ²¹	人間関係	姐妹俩	姉妹ふたり
	舅甥家	ɬy ¹³ suei ²¹ ka ²¹	人間関係	舅甥俩	叔父と甥
叔侄家	su ⁵⁵ dzɿ ⁵ ka ²¹	人間関係	叔侄俩	叔父と甥	
時 間 名 詞	日里家	ɲ ⁵⁵ li ²¹ ka ²¹	時間	白天	昼間
	半日前家	pɯ ²² ɲ ⁵ ɬi ¹¹ ka ²¹	時間	中午	昼ごろ
	夜会前家	ia ⁵⁵ uei ⁵ ɬi ¹¹ ka ²¹	時間	黄昏	黄昏
	夜里家	ia ⁵⁵ li ²¹ ka ²¹	時間	夜晚	夜
	六月家	ly ²² ye ⁵ ka ²¹	時間	夏天	夏
正月家	tei ⁵⁵ ye ⁵ ka ²¹	時間	正月	旧正月	

人称名詞につく“家”と時間名詞につく“家”は同じ発音であるが、それぞれが異なった來源をもつ可能性がある。時間名詞につく“家”の本字は不明であるが、一方、人称名詞につく“家”は本字であると考えられる。このような“家”は早くも唐代の諸文学作品に使われ始め、語根名詞と共通する身分や性質、職業などを示す(太田辰夫(1957);香坂順一(1967:428))。次の用例は太田辰夫(1957)より引用されたものである。

- (17) 可知男人家见一个爱一个。(清代)
 (18) 霓裳禁曲无人解、暗问梨园弟子家。(唐代)

接尾辞の“家”は現代北京語でも使用されている。たとえば、“小孩子家”(子供たるもの)、“姑娘家”(女の子たるもの)などであるが、軽蔑視のニュアンスが強い。これに対して、蔡橋方言の“家”は語構成の役割しかもたず、感情的にはニュートラルである。

2.3.4 “首”類接尾辞

動詞の接尾辞として、“首”([cy²¹])は“吃”(食べる)、“看”(見る)、“讲”(話す)、“搞”(する)などの

動詞に後接し、「～するのうち（甲斐）がある」の意味を表す。たとえば、“吃首 [tɕia⁵⁵ ey²¹]”（食べる値打ち）、“看首 [kʰa¹³ ey²¹]”（見る価値）、“做首 [tsu³⁵ ey²¹]”（やりがい）、“搞首 ([gəu¹¹ ey²¹])”（やりがい）、“听首 [tʰa¹³ ey²¹]”（聞きごたえ）、“讲首 ([kaŋ⁵³ ey²¹])”（話しがい）、“赚首 ([dʒaŋ¹³ ey²¹])”（稼ぎ甲斐）などである。

(19) 果 本 书 没得 么 看 首。
この 冊 本 ない 何 読む 価値

[この本は何の読む価値もない。]（这本书没什么看头。）

(20) 米 是 辛苦 事, 没得 么果 做 首。
あれ である つらい 仕事 ない 何の やる 価値

[あの仕事は骨折り損のくたびれ儲けだ。やりがいが無い。]（那是辛苦活儿、没什么做头。）

因みに、北京語においては接尾辞“头”が「～する価値がある」の意味を表し、“吃头”（食べる値打ち）、“看头”（見る価値）、“听头”（聞きごたえ）、“说头”（話しがい）、“赚头”（稼ぎ甲斐）のように使われる。

以上、蔡橋方言の接尾辞を考察した。これらのほかに、方位詞（方向・位置を表す語）の接尾辞“头”がある。“头”は北京語において“上头”（うえ）、“下头”（した）、“里头”（なか）、“外头”（そと）、“前头”（まえ）、“后头”（うしろ）のように使われるが、蔡橋方言の“头”は“下头 ([ya⁵⁵li⁵])”（した）、“里头 ([i⁵⁵di⁵])”（なか）、“后头 ([zy¹¹dy⁵])”（うしろ）のように使われるのみで、“上头”（うえ）、“外头”（そと）、“前头”（まえ）のようには言わず、使用範囲が北京語より狭い。

表11 蔡橋方言における方位詞

蔡橋方言	北京語	日本語の意味
高冲 [kəu ⁵⁵ tʰiəŋ ⁵]	上头	うえ
下头 [ya ⁵⁵ di ⁵]	下头	した
里头 [i ⁵⁵ di ⁵]	里头	なか
面前 [mɪ ¹¹ tʰi ⁵]	外头	そと
头前 [dy ¹¹ tʰi ⁵]	前头	まえ
后头 [zy ¹¹ di ⁵]	后头	うしろ

2.3.5 性別修飾成分

蔡橋方言で動物の性別を修飾する形態素には、「おすの」を表す“公” [kəŋ⁵⁵]、“牯” [ku⁵³] と、「めすの」を表す“娘” [ŋiəŋ¹¹]、“婆” [bo¹¹] がある。これらの形態素が接尾詞として動物名詞の後ろにつくことが蔡橋方言の特徴である。

表12 蔡橋方言における動物性別の修飾成分

蔡橋方言	北京官話	日本語
鸡公 [tɕi ⁵⁵ kəŋ ⁵⁵]	公鸡	おすの鶏
鸡婆 [tɕi ⁵⁵ bo ¹¹] / 鸡娘 [tɕi ⁵⁵ ŋiəŋ ¹¹]	母鸡	めすの鶏

鵝公 [ŋo ¹¹ kəŋ ⁵⁵]	公鵝	おすのガチョウ
鵝婆 [ŋo ¹¹ bo ¹¹]	母鵝	めすのガチョウ
鴨公 [a ⁵⁵ kəŋ ⁵⁵]	公鴨	おすのアヒル
鴨婆 [a ⁵⁵ bo ¹¹]	母鴨	めすのアヒル
狗公 [ky ⁵³ kəŋ ⁵⁵]	公狗	おすの犬
狗娘 [ky ⁵³ ŋiəŋ ¹¹]	母狗	めすの犬
黄牯子 [yü ¹¹ ku ²¹ tsi ²¹]	公(的黄)牛	おすの黄牛
黄牛婆 [yü ¹¹ ŋiəŋ ⁵ bo ¹¹]	母(的黄)牛	めすの黄牛
水牯 [s ¹ kw ²¹]	公(的水)牛	おすの水牛
水牛婆 [s ¹ ŋiəŋ ⁵ bo ¹¹]	母(的水)牛	めすの水牛

性別修飾成分の位置が動物名称の前か後ろかは、漢語方言の地理的分布をみると、南北で大きく二分されている。一般的に、「おすの」、「めすの」にあたる形態素が南方方言では動物名称のあとに来るのに対して、北方方言では動物名称の前に置かれる（橋本萬太郎（1978：69））。この側面において蔡橋方言は典型的な南方方言の特徴を持っている。

3. 蔡橋方言の名詞の特色

蔡橋方言名詞の最も大きな特徴は重畳形が多いことである。北京語には重畳形名詞の数が非常に少なく、AA型とAABB型として使われている。

a. AA型

AA型は趙元任（1979）によると、“车车”（車），“饭饭”（ご飯），“手手”（手）などの「幼児語」を除けば、さらに次のような三種類に分けられる。

- a1. 親族呼称 “妈妈”（母親），“爸爸”（父親），“爷爷”（祖父），“奶奶”（祖母）
- a2. “蚰蚰儿”（コオロギ），“蝈蝈儿”（キリギリス），“猩猩”（オランウータン），“星星”（ほしほし）
- a3. “天天”（どの日も），“处处”（どの場所も），“人人”（どの人も），“回回”（どの回も）

b. AABB型

AABB型は“子子孙孙”（子子孫孫），“年年岁岁”（毎年毎年）のような文語的な表現に限られ、数量的にもかなり少ない。

北京語で造語力が低いのは対照的に、蔡橋方言では「AA型」の重畳形名詞がたくさん用いられる。とくに、生活器具や植物、食物、地形などの身近な事物を表す名詞類は重畳形式を取ることが多い。表13は蔡橋方言の重畳形名詞を網羅したものである。

表13 蔡橋方言におけるAA型重畳形名詞

分類	蔡橋	北京	日本語	分類	蔡橋	北京	日本語
----	----	----	-----	----	----	----	-----

器具	桌桌	[tso ⁵⁵ tso ²¹]	桌子	テーブル	器具	尖尖	[tsi ⁵⁵ tsi ⁵]	尖儿	先端部
器具	盆盆	[bei ¹¹ bei ⁵]	盆儿	たらい	器具	底底	[ti ⁵⁵ ti ⁵]	底儿	底
器具	索索	[so ⁵⁵ so ²¹]	绳子	ひも	器具	心心	[sei ⁵⁵ sei ²¹]	心儿	芯
器具	袋袋	[da ⁵⁵ da ⁵]	袋子	ふくろ	器具	孔孔	[kʰəŋ ⁵⁵ kʰəŋ ⁵]	孔	あな
器具	带带	[ta ²² ta ⁵]	带子	おび	器具	叉叉	[tsʰa ⁵⁵ tsʰa ²¹]	缝儿	裂け目
器具	□□	[tsi ⁵⁵ tsi ²¹]	塞子	栓	植物	秆秆	[kaŋ ⁵⁵ kaŋ ⁵]	甘蔗	砂糖黍
器具	叫叫	[tɕiəu ²² tɕiəu ⁵]	哨子	笛	植物	叶叶	[ie ²² ie ⁵]	叶子	葉っぱ
器具	桶桶	[tʰəŋ ⁵⁵ tʰəŋ ⁵]	桶子	桶	植物	须须	[si ⁵⁵ si ²¹]	须	植物のひげ
器具	筒筒	[dəŋ ¹¹ dəŋ ⁵]	筒子	筒	植物	籽籽	[tsa ⁵⁵ tsa ⁵]	籽儿	種
器具	罐罐	[ku ²² ku ⁵]	罐子	つぼ	植物	藤藤	[dei ¹¹ dei ⁵]	藤	蔓(つる)
器具	瓶瓶	[bei ¹¹ bei ⁵]	瓶子	瓶	植物	垮垮	[kʰua ⁵⁵ kʰua ⁵]	杈子	木のまた
器具	棍棍	[kuei ²² kuei ⁵]	棍子	棒	植物	杈杈	[tsʰa ⁵⁵ tsʰa ²¹]	杈子	木のまた
器具	棒棒	[bū ¹¹ bū ⁵]	棒子	棒	植物	干干	[kɑ ⁵⁵ kɑ ²¹]	杆儿	木の幹
器具	塞塞	[sa ⁵⁵ sa ²¹]	篮子	かご	植物	兜兜	[ty ⁵⁵ ty ²¹]	根儿	根っこ
器具	壶壶	[vu ¹¹ vu ⁵]	壶	つぼ	食物	粑粑	[pa ⁵⁵ pa ²¹]	糍粑	もち
器具	箩箩	[no ¹¹ no ⁵]	箩筐	かご	食物	饼饼	[pei ⁵⁵ pei ⁵]	饼	ケーキ
器具	方方	[xū ⁵⁵ xū ²¹]	木头	材木	食物	渣渣	[tsa ⁵⁵ tsa ²¹]	渣儿	かす
器具	板板	[pɑ ⁵⁵ pɑ ⁵]	板子	板	食物	脚脚	[tɕio ⁵⁵ tɕio ²¹]	渣儿	かす
器具	片片	[pʰi ¹¹ pʰi ⁵]	片儿	物の断片	自然	坑坑	[kʰaŋ ⁵⁵ kʰaŋ ²¹]	沟儿	溝
器具	铲铲	[tsʰɑ ⁵⁵ tsʰɑ ⁵]	铲子	スコップ	自然	凼凼	[dɑ ¹¹ dɑ ⁵]	坑	くぼ
器具	钩钩	[ky ⁵⁵ ky ²¹]	钩儿	ホック	自然	泡泡	[pʰəu ¹¹ pʰəu ⁵]	泡沫	泡
器具	罩罩	[tsəu ²² tsəu ⁵]	罩儿	覆い	自然	岭岭	[niaŋ ⁵⁵ niaŋ ⁵]	高山	高い山
器具	盖盖	[ka ²² ka ⁵]	盖儿	ふた	自然	顶顶	[tei ⁵⁵ tei ⁵]	顶儿	てっぺん
器具	嘴嘴	[tsi ⁵⁵ tsi ⁵]	嘴儿	口状の物	自然	坳坳	[ŋəu ²² ŋəu ⁵]	山坳	山の窪み
器具	口口	[kʰy ⁵⁵ kʰy ⁵]	口子	口状の物	自然	冲冲	[ʰiəŋ ⁵⁵ ʰiəŋ ²¹]	山冲	山間平地
器具	把把	[pa ²² pa ⁵]	把儿	取っ手	自然	坪坪	[bei ¹¹ bei ⁵]	坪	平地
器具	齐齐	[tɕi ¹¹ tɕi ⁵]	把儿	取っ手	自然	边边	[pɿ ⁵⁵ pɿ ²¹]	边儿	へり、縁
器具	壳壳	[kʰo ⁵⁵ kʰo ²¹]	壳儿	殻	自然	圆圆	[nu ¹¹ nu ⁵]	圈儿	丸
器具	皮皮	[bi ¹¹ bi ⁵]	皮儿	皮	人格	傻傻	[xa ⁵⁵ xa ⁵]	傻子	ばか

他の名詞が修飾語として「AA型」名詞をかぶせて用いられることもある。この「xAA型」重畳形名詞を一覧にしたのが表14である。

表14 蔡橋方言における「xAA型」の重畳形名詞

修飾語	語根	発音	北京語	日本語訳
鉄	圈圈	tʰie ⁵⁵ tʰye ⁵⁵ tʰye ²¹	铁环	鉄の輪

刀	把把	təu ⁵⁵ pa ²² pa ⁵	刀把儿	包丁のつか
	口口	təu ⁵⁵ kʰy ⁵³ kʰy ⁵	刀口	包丁の刃
筷子	笼笼	kʰua ¹³ dəŋ ¹¹ dəŋ ⁵	筷笼	箸入れ
	筒筒	kʰua ¹³ tsɿ ¹ dəŋ ¹¹ dəŋ ⁵	筷子筒	箸入れの筒
茅	棚棚	məu ¹¹ bəŋ ¹¹ bəŋ ⁵	茅棚	チガヤの小屋
铁	箍箍	tʰie ⁵⁵ ku ⁵⁵ ku ²¹	铁箍	鉄のたが
木		məŋ ⁵⁵ ku ⁵⁵ ku ²¹	木箍	木のたが
竹		ty ⁵⁵ ku ⁵⁵ ku ²¹	篾箍	竹のたが
鞋	带带	ɣa ¹¹ ta ⁵⁵ ta ⁵	鞋带	靴ひも
竹	筒筒	ty ⁵⁵ dəŋ ¹¹ dəŋ ⁵	竹筒	竹の筒
梨子	把把	ni ¹¹ tsɿ ¹ pa ²² pa ⁵	梨把儿	梨のへた
瓜		kua ⁵⁵ pa ²² pa ⁵	瓜蒂	うりのへた
	南瓜	kua ⁵⁵ dei ¹¹ dei ⁵	瓜蔓	うりのつる
冬瓜		nā ¹¹ kua ²¹ dei ¹¹ dei ⁵	南瓜藤	南瓜のつる
		nā ¹¹ kua ²¹ dei ¹¹ dei ⁵	冬瓜藤	冬瓜のつる
菜	秧秧	sʰa ¹³ iaŋ ⁵⁵ iaŋ ²¹	菜秧	野菜の苗
禾	线线	yo ¹¹ sɿ ⁵⁵ sɿ ⁵	稻穗	稲の穂
麦		ma ²² sɿ ⁵⁵ sɿ ⁵	麦穗	麦の穂
树	皮皮	zɿ ¹³ bi ¹¹ bi ⁵	树皮	木の皮
	叶叶	zɿ ¹¹ ie ⁵⁵ ie ⁵	树叶	木の葉
	垮垮	zɿ ¹³ kʰua ⁵⁵ kʰua ⁵	树枝	木の枝
	杈杈	zɿ ¹³ tsʰa ⁵⁵ tsʰa ²¹	树杈	木のまた
	干干	zɿ ¹³ kā ⁵⁵ kā ⁵	树干	木の幹
	兜兜	zɿ ¹³ ty ⁵⁵ ty ²¹	树根	木の根
豆	秆秆	diəu ¹³ kaŋ ⁵⁵ kaŋ ⁵	豆秆	大豆の莖
山	岭岭	sā ⁵⁵ niaŋ ⁵⁵ niaŋ ⁵	山岭	峰
	拗拗	sā ⁵⁵ əu ²² əu ⁵	山拗	山間の窪地
	冲冲	sā ⁵⁵ ʰiəŋ ⁵⁵ ʰiəŋ ²¹	山冲	山間の平地
屋	顶顶	vu ⁵⁵ tei ⁵⁵ tei ⁵	屋顶	屋上
水	坑坑	ʃɿ ⁵³ kʰaŋ ²¹ kʰaŋ ²¹	水坑	水たまり
山	边边	sā ⁵⁵ pɿ ⁵⁵ pɿ ²¹	山边	山沿い
田 ²		di ¹¹ pɿ ⁵⁵ pɿ ²¹	田边	畑のそば
土		tʰu ⁵³ pɿ ⁵⁵ pɿ ²¹	地边	畑のそば

²ここでは、“田”も“土”も日本語で「畑」と訳されているが、両者は蔡橋方言では別物である。“田”は主に稲や麦などの糧食作物、“土”は主に馬鈴薯や落花生などの経済作物を栽培する土地である。

路		lu ⁵⁵ pi ⁵⁵ pi ²¹	路边	道ばた
额头	皮皮	ŋa ⁵⁵ dy ⁵ bi ¹¹ bi ⁵	额头	ひたい
手胳膊	弯弯	ɕy ⁵⁵ kie ⁵ ũ ⁵⁵ u ²¹	手肘	ひじ
手指	格格	ɕy ⁵⁵ tsi ⁵ kie ⁵⁵ kie ²¹	手指甲	手の爪
手	背背	ɕy ⁵³ pa ²² pa ⁵	手背	手の甲
鱼	鳞鳞	zɿ ¹¹ nei ¹¹ nei ⁵	鱼鳞	うろこ
牛	筋筋	ŋiəu ¹¹ ɬiei ⁵⁵ ɬiei ²¹	牛筋	牛筋
蛋	皮皮	da ¹³ bi ¹¹ bi ⁵	蛋壳	卵の殻
肉	丝丝	ŋiəu ⁵⁵ sɿ ²¹ sɿ ²¹	肉丝	細切りの肉
线	坨坨	sɿ ³⁵ do ¹¹ do ⁵	线团	丸めた糸
橡皮		ɬiaŋ ¹³ bi ²¹ do ¹¹ do ⁵	橡皮	消しゴム

重疊形名詞は晋語などの漢語方言でも見られる ((21)、(22)参照)。

(21) (甘肃兰州)

碗碗 (小碗儿)、树树 (小树儿)、水水 (少量水)

(22) (山西太原)

瓶瓶 (小瓶儿)、凳凳 (小凳儿)、板板 (小板儿)

ただし、これらの方言の重疊形名詞は物の「小さい」ことや「可愛らしさ」など、いわゆる「指小性」を表す。それに対し、蔡橋方言の重疊形名詞は必ずしも小さな物体をあらわすとは限らない。例えば、次のような「けた外れの大きな瓶」をいう場合でも、重疊形名詞の“瓶瓶”が使われている。

(23) 天大巴大个**瓶瓶**

西南官話の四川方言は重疊形名詞が最も発達していると言われる。表 15 は四川方言の重疊形名詞とそれに対応する北京語表現を挙げている (データは梁徳曼 (1982))。この表から分かるように、四川方言の重疊形名詞に対応する北京語は“儿”の接尾辞形式などである。灰色で示したものが蔡橋方言において重疊形となっている単語である。

表15 四川方言の重疊型名詞とそれに対応する北京語表現

四川方言	北京語	四川方言	北京語
草草	草	气气	气味儿
灰灰	灰	抽抽	抽屉
洞洞 (儿)	洞	沉沉	沉渣
虫虫 (儿)	虫	空空	空当
毛毛 (儿)	毛毛	角角	边角儿
坑坑 (儿)	坑	疤疤	伤疤

锅锅儿	锅	皱皱	皱纹
桶桶儿	桶	豁豁	豁嘴儿
圈圈 (儿)	圈	棒棒	棒子
根根 (儿)	根	凼凼儿	水坑儿
壶壶	壶	帕帕儿	手绢儿
钩钩 (儿)	钩儿	架架儿	背心儿
杆杆 (儿)	杆儿	瓢瓢儿	调羹
边边 (儿)	边儿	篾篾	篮子
核核 (儿)	核儿	飞飞儿	小条子
箱箱	箱子	吹吹儿	哨子
架架	架子	包包儿	衣裤上的口袋儿
瓶瓶儿	瓶子	坨坨	团儿
肠肠儿	肠子	包包	疙瘩
杯杯 (儿)	杯子	索索	绳子
渣渣	渣子	瓜瓜	傻子
沙沙	沙子	恍恍	粗心大意的人
柜柜 (儿)	柜子	灰灰儿	重孙
笼笼	笼子	末末儿	曾孙
皮皮 (儿)	皮儿	家家	外婆
箍箍儿	箍儿	牛牛儿	陀螺
尖尖儿	尖儿	别别	门窗上的金属门
壳壳	壳儿	雀雀儿	小鸟儿
盆盆儿	盆儿/盆子	坝坝	平地
口口儿	口儿/口子	扫扫	小笤帚
棍棍儿	棍儿/棍子	坨坨	污垢, 汗垢
本本儿	本儿/本子	脚脚	液体中的沉渣
盖盖儿	盖儿/盖子		

四川方言のみならず蔡橋方言でも重疊形名詞は発達しているが、他の湘語では同様の発達が殆ど見られない。その原因の一つとして、蔡橋郷が歴史上、中国西南部の大きな軍事拠点の「武岡」(宋:武岡軍;元:武岡路;明清:武岡府、武岡州;現代:武岡県、武岡市)に属しており、北方との人員往来が頻繁であったため、西南官話の影響を受けたことが考えられる。ただし、この点についてはさらなる考証が必要である。

重疊形式は蔡橋方言の名詞の語形成における重要な文法手段であり、構成する語根が単独で使用できるか否かによって、二分される。

a. 語根が単独で使用できる重畳形式

脚脚、皮皮、底底、套套、叫叫、罩罩、盖盖、钩钩、铲铲、尖尖、傻傻、圆圆、弯弯 など。

b. 語根が単独で使用できない重畳形式

桌桌、棒棒、箩箩、片片、杆杆、桶桶、袋袋、盆盆、饼饼、粑粑、坑坑、囡囡、岭岭、坪坪、頂頂、冲冲、杈杈、垮垮、兜兜、渣渣、须须、根根、齐齐、把把、底底、嘴嘴、塞塞、方方、板板、棍棍、壳壳、孔孔 など。

a 類の重畳形式は単独で使用される語根と異なった意味を表す。すなわち、語根と重畳形式の間には、意味の派生が起きている。一方、b 類では語根が単独で使えないため、重畳は意味の派生をもたらさず、語形成の文法手段であるにすぎない。

以下では、名詞語根、動詞語根、形容詞語根の 3 つの場合を分けて、a 類の重畳名詞における意味派生のプロセスについて考察する。

a1. 名詞語根の場合

ここでは、まず名詞語根“脚”([tɕio⁵⁵])とそれの重畳形式“脚脚”([tɕio⁵⁵tɕio²¹])を例に挙げる。両者はそれぞれ「あし」、「沈殿物」を表す。「あし」は人間の身体を支える最も下の部位である。一方、「沈殿物」は容器の最も下に沈んだ物質である。両者の間には「最も下の部分」という類似点があるため、「脚脚」([tɕio⁵⁵tɕio²¹])と“脚”([tɕio⁵⁵])は類似性に基づいた意味の拡張関係、すなわち、「メタファー」の関係にあると考えられる。

(24) あし足：两只脚（二本のあし）

沈殿物：把茶壶里个脚脚控制。（急須の沈殿物を捨てなさい。）

“皮”と“皮皮”もメタファーによる意味の拡張であると考えられる。前者は例えば、“牛皮”（牛の皮）、“猪皮”（豚の皮）などのように使われ、動物の表皮を表す。一方、後者はその意味から拡張して、“蛋皮皮”（卵の殻）、“书皮皮”（本のカバー）などのように使われ、植物の殻や物のカバーなどを表す。両者は「表面を覆う」という意味で類似している。これら以外に、“口”（くち）と“口口”（容器の口、出入り口など）、“路”（みち）と“路路”（紋様）などの語根名詞と重畳形式のペアがある。いずれにおいても、前者が基本的な意味を表すのに対して、後者はメタファーにより拡大された意味を表す。

a2. 動詞語根の場合

動詞語根の重畳形は語根の動作を行うための道具となる。たとえば、“盖”は「ふたをする、かぶせる」の意味を表す動詞であるが、重畳形“盖盖”は「ふた、かぶせるもの」の意味を表し、動作“盖”を行うための道具となっている。こういう動作→道具のような意味の拡張はメトニミーの関係として捉えられる。

(25) 莫 忘记 盖 盖盖 哩。

NEG 忘れる かけ ふた MOD

[蓋をかけるのを忘れないでね。]（別忘了盖盖子。）

また、“叫”と“叫叫”もメトニミーの関係にある。“叫”は「鳴る、鳴く」を表す動詞であるが、一方、重畳形“叫叫”はホイッスルの意味である。

- (26) 果 喇叭 唔 叫 哩。
 この クラクション NEG 鳴る MOD
 [このクラクションは鳴らなくなった。] (这喇叭不叫了。)

- (27) 我 买 个 叫叫 回来。
 私 買う 個 ホイッスル 帰ってくる
 [ホイッスルを買ってくる。] (我买个口哨回来。)

さらに、“罩 ([tsəu³⁶])” (かぶせる) と “罩罩 ([tsəu²²tsəu⁵])” (覆い)、“口 ([tsi⁵⁵])” (塞ぐ) と “口口 ([tsi⁵⁵tsi¹])” (栓) に関しても、それぞれのペアがメトニミーの関係として捉えられる。

a3. 形容詞語根の場合

形容詞語根の重畳形式は、語根の性質を持つ物を表す。例えば、“圓 [nū¹¹]” は「丸い」の意味を表す形容詞である。その重畳形式“圓圓 [nū¹¹nū⁵]” は「輪、丸」など「丸い」特性をもつ物を表す。

- (28) 果 只 猪 吃 得 纠 圓。
 この 頭 豚 食べる 助詞 とても 丸い
 [この豚はたくさん食べて丸々としている。] (这头猪吃得滚圆滚圆的。)

- (29) 担 铅笔 画 只 圓圓。
 で 鉛筆 描く ひとつ 丸
 [鉛筆で丸を描く。] (拿铅笔画个圆。)

また、“尖 [tsi⁵⁵]” は「尖っている、鋭利」の意味を表す形容詞であるが、その重畳形式“尖尖 [tsi⁵⁵tsi⁵]” は名詞に変わり、枝や刀など物体の先端を表す。

- (30) 米 刀 尖尖 令尖。
 その 刀 先 とても鋭利な
 [その刀の先はとても鋭利だ。] (那把刀很锋利。)

“傻 [xa⁵³]” は「愚か」を意味する形容詞であり、その重畳形式“傻傻 [xa⁵³ xa⁵]” はその性質を持つ人「ばか者」を表す。

- (31) 己 傻 得 很。
 彼 ばか PART とても
 [彼はとことんバカだ。] (他很蠢。)

- (32) 己 是 个 傻傻。
 彼 である ひとり ばか者
 [彼はばか者だ。] (他是个傻瓜。)

このように、動詞語根、形容詞語根は重畳形式をとることによって、品詞の種類が名詞に変わる。した

がって、重畳形式は蔡橋方言においては名詞化機能をもつといえる。これに対して北京語では、品詞の種類を変えるためには接尾辞を用いる方法が最もよく用いられる。たとえば、接尾辞“儿”を量詞語根（(1)参照）、形容詞語根（(1)参照）、動詞語根（(1)参照）の後ろに用いて、名詞を作り上げる。次の語例は朱德熙（1982:30）より引用した。

- | | |
|----------------------|-----------------|
| (33) 口儿 [口のあるものを数える] | 朵儿 [花房を数える] |
| 根儿 [細かく短い線分状のものを数える] | 串儿 [連なったものを数える] |
| (34) 尖儿 [先] | 黄儿 [黄身] |
| 干儿 [乾燥物] | 零碎儿 [はした] |
| (35) 盖儿 [ふた] | 滚儿 [転げること] |
| 画儿 [絵] | 吃儿 [簡単な食べ物] |

蔡橋方言にも、北京語のように接尾辞を用いて名詞化する方法がある。ただし、接尾辞を用いた名詞と重畳形名詞は異なった意味を表す。例えば、語根“尖”は重畳形“尖尖”と接尾形式“尖子”という2種の名詞を構成できるが、“尖尖”は物体の先端部を表すのに対して、“尖子”はある分野で最も優れた人物を表す。語根“嘴”からなっている“嘴嘴”は「容器の口」を表すが、“嘴子”は「口の利き方」を意味する。

4. 蔡橋方言の形容詞の特色

北京語の形容詞は朱德熙（1956）により、性質形容詞と状態形容詞の2種類に分けられている。前者は簡単形式ともいわれ、“大（大きい）、红（赤い）、多（多い）、快（早い）、好（よい）、干净（きれい）、大方（気前がよい）、糊涂（愚か）、规矩（行儀がよい）、伟大（偉大）”などを含め、単純な属性を表す。後者は複雑形式ともいわれ、“小小儿（小さい）、大大方方（気前がよい）、红通通（真っ赤）、通红（真っ赤）、冰凉（とても冷たい）、很大（とても大きい）”のような簡単形式の反復形、および接辞・副詞を伴った形式であり、話し手の主観的評価を表す。また、両者の文法機能にも相違点がある。前者が使用制限を多く受けているのに対して、後者は文中で自由に使えるという。たとえば、次のような場合では、性質形容詞が使えないが、状態形容詞は使うことができる。

性質形容詞			状態形容詞			
a. * 厚	雪		老厚	的	雪	
厚い	ゆき		とても厚い	PART	ゆき	
b. * 薄	灰尘		薄薄	的	灰尘	
薄い	灰		薄い	PART	灰	
c. * 好	写	一篇	好好	地	写	一篇
よく	書く	一篇	ちゃんと	PAR	書く	一篇
d. * 紧	拿	着	紧紧	地	拿	着
しっかり	持つ	ASP	しっかり	PART	もつ	ASP

蔡橋方言の性質形容詞は文法機能上、北京語のそれと大差が見られないので考察を省くことにする。こ

ここでは蔡橋方言の状態形容詞だけを取り上げる。蔡橋方言の状態形容詞は形態的な特徴により、「AA 型」、「xA 型」、「xAxA 型」、「xA 巴 A 型」、「Axx 型」に分けられる。以下、それぞれのパターンについて考察する。

4.1 「AA 型」形容詞

蔡橋方言の AA 型形容詞には次のようなものがある。

- a. 大大 [da¹¹ da⁵] (大きい)

大大帽子 (大きな帽子)

- b. 碎碎 [suei¹¹ suei⁵] (紛々にされた)

碎碎肉 (紛々にされたお肉)

- c. 薄薄 [bo¹¹bo⁵] (薄い)

薄薄紙 (薄い紙)

- d. 怪怪 [kua¹¹ kua⁵] (おかしい)

怪怪話 (おかしげなお話)

AA 型形容詞は直接に名詞を修飾することもできるし、次のように接尾辞「里」([li]) と助詞“个”([ki]) を伴って使うこともできる。

大大里个帽子 (大きな帽子)

薄薄里个纸 (薄い紙)

大大里个鞋子 (大きな靴)

薄薄里个衣衫 (薄い服)

そして、蔡橋方言の AA 型形容詞は意味的には、程度の甚だしさを強調するニュアンスを持っている。たとえば、“大大帽子”は“大帽子”より大きい、“碎碎肉”は“碎肉”より細かいという意味合いを持っている。これに対して、普通話の AA 型形容詞は連体修飾語になる場合、程度を強めるのではなく、「愛らしい、好ましい」といった感情を表す。たとえば、

- | | | | | | | |
|----------------|------|-----|----|------|-------|------|
| (36) <u>脏脏</u> | 的 | 小 | 脸, | 怪 | 惹人爱 | 的。 |
| 汚い | PART | 小さな | 顔 | なかなか | 可愛らしい | PART |

“脏脏”は繰り返すことによって、元々基本形に含まれていたネガティブな意味合いがなくなって、「愛らしい」の意味を持つようになったという (朱德熙 (1956) 参照)。

ところで、「AA」型は北京語において非常に多く見られる形容詞の形式である。たとえば、“高→高高；矮→矮矮；白→白白；黄→黄黄”のように、殆どの単音節形容詞が AA 型になり得る。これに対し、蔡橋方言における AA 形式は造語力が低い。その代わりに、「xA、xAxA、xA 巴 A」などのような接辞を用いた複雑な形式、いわゆる「状態形容詞」が多く用いられる。以下は、これらの状態形容詞について考察する。

4.2 「Axx 型」形容詞

「Axx」型は修飾成分が重畳形式を取ったうえ、形容詞の後に付く形式である。程度の甚だしさを表す。

黄澄澄 [yü¹¹ tsei⁵⁵ tsei¹³] (黄色い)

凉息息 [niaq¹¹ si⁵⁵ si⁵] (涼しい)

热和和 [i³⁵ xu⁵³ xu⁵⁵] (暖かい)

圆踢踢 [nü¹¹tʰia²²tʰia⁵] (丸い)

大叭叭[da¹³ p^ha⁵³ p^ha⁵³] (大きい) 轻 冒冒 烂叭叭[la⁵⁵ p^ha⁵³ p^ha⁵³] (ぼろぼろ)
 [t^hiaŋ⁵⁵məu²²məu⁵] (軽い) 松垮垮[səp⁵⁵ k^hua⁵³ k^hua⁵³] (ゆるい)
 壮砣砣[tsaŋ³⁵ do¹¹ do¹¹] (太っている)

4.3 「xA型」形容詞

「xA型」は単音節形容詞(A)とそれの修飾成分(x)から構成された状態形容詞である。その修飾成分(x)は形容詞(A)の甚だしい程度を表す。(x)の本字は確定することが困難なため、すべて同音字が当てられている。

<u>空白</u> [k ^h əŋ ⁵⁵ bie ¹³] (真っ白)	<u>崑平</u> [tsā ⁵³ bei ¹¹] (とても平たい)
<u>黢黑</u> [t ^h ʃi ⁵⁵ xie ⁵⁵] (真っ黒)	<u>箭直</u> [tsi ³⁵ dz ¹³] (真っ直ぐの)
<u>喷香</u> [p ^h ei ⁵⁵ eiaŋ ⁵⁵] (とても良い香り)	<u>拉粗</u> [la ⁵⁵ ts ^h u ⁵⁵] (とても粗い)
<u>骨軟</u> [gye ⁵⁵ t ^h ʃi ³⁵] (とても冷たい)	<u>累壮</u> [nuei ⁵⁵ tsu ³⁵] ([体が] とても丈夫)
<u>冰軟</u> [pei ⁵⁵ t ^h ʃi ³⁵] (とても冷たい)	<u>溜滑</u> [ny ⁵⁵ yua ³⁵] (とても滑らか)
<u>搓软</u> [nəu ⁵⁵ ye ⁵³] (とても柔らかい)	<u>亲甜</u> [t ^h ʃei ⁵⁵ di ¹¹] (とても甘い)
<u>懸淡</u> [pie ⁵⁵ da ⁵³] ([味が] とても薄い)	<u>滚开</u> [kuei ⁵³ k ^h a ⁵⁵] ([お湯が] とても熱い)
<u>梆硬</u> [p ^h ei ⁵⁵ nei ³⁵] (とても硬い)	

以上の修飾成分(x)はそれぞれ特定の形容詞しか修飾することができない。それに対して、下に挙げた修飾成分、たとえば、[tsy⁵⁵] (“糾”)、[t^hʃiaŋ⁵⁵] (“清”)、[fi⁵⁵] (“飞”)、[nei⁵⁵] (“令”)などはそれぞれ複数の形容詞を修飾することが可能である。

a. x=糾 [tsy⁵⁵]

<u>糾青</u> [tsy ⁵⁵ t ^h ʃiaŋ ⁵⁵] (とても青い)	<u>糾干</u> [tsy ⁵⁵ kā ⁵⁵] (とても乾燥している)
<u>糾清</u> [tsy ⁵⁵ t ^h ʃiaŋ ⁵⁵] (とても透き通っている)	<u>糾酸</u> [tsy ⁵⁵ sū ⁵⁵] (とても酸っぱい)
<u>糾湿</u> [tsy ⁵⁵ ʃl ⁵⁵] (とても濡れている)	<u>糾圞</u> [tsy ⁵⁵ nū ¹¹] (とても丸い)

b. x=清 [t^hʃiaŋ⁵⁵]

<u>清苦</u> [t ^h ʃiaŋ ⁵⁵ k ^h u ⁵³] (とても苦い)	<u>清腥</u> [t ^h ʃiaŋ ⁵⁵ siaŋ ⁵⁵] (とても生臭い)
<u>清臭</u> [t ^h ʃiaŋ ⁵⁵ t ^h y ¹³] (とても臭い)	<u>清瘦</u> [t ^h ʃiaŋ ⁵⁵ sy ¹³] (とても痩せている)

c. x=飞 [fi⁵⁵]

<u>飞红</u> [fi ⁵⁵ ŋ ¹¹] (真っ赤)	<u>飞咸</u> [fi ⁵⁵ ya ¹¹] (とても塩辛い)
<u>飞黄</u> [fi ⁵⁵ ŋ ¹¹] (とても黄色い)	<u>飞快</u> [fi ⁵⁵ k ^h ua ¹³] (とても速い)

d. x=令 [nei⁵⁵]

<u>令糟</u> [nei ⁵⁵ tsəu ⁵⁵] (とても脆い)	<u>令尖</u> [nei ⁵⁵ tsi ⁵⁵] (とてもとがっている)
<u>令光</u> [nei ⁵⁵ kū ⁵⁵] (とてもつるつるしている)	

さらに、「xA型」は「xAxA型」と「xA 巴 A型」の2つの拡張形式を有する(下記の4)と5)参照)。

(1) 「xAxA型」

この形式はxA型が二回繰り返されることによってできた形容詞のパターンである。

黢黑黢黑[t ^h ʃi ⁵⁵ xie ⁵⁵ t ^h ʃi ⁵⁵ xie ⁵⁵]	糾青糾青[tsy ⁵⁵ t ^h ʃiaŋ ⁵⁵ tsy ⁵⁵ t ^h ʃiaŋ ⁵⁵]
--	--

(2) 「xA 巴 A 型」

「xA 巴 A」型は「xA」型からの拡張型である。すべての「xA 型」にはこのように拡張形がある。ただし、「xA 巴 A」型には「度外れ」のようなネガティブな感情が含まれているのに対し、「xA」型は感情的にニュートラルである。

清瘦巴瘦[tshiaŋ⁵⁵sy³⁵ pa²¹sy³⁵]

冰歉巴歉[pei⁵⁵tshiei³⁵pa²¹tshiei³⁵]

纠青巴青[ttsy⁵⁵tshiaŋ⁵⁵pa²¹tshiaŋ⁵⁵]

捞软巴软[nəu⁵⁵ye⁵³pa²¹ye⁵³]

飞红巴红[fi⁵⁵ŋ¹¹pa²¹ŋ¹¹]

飞咸巴咸[fi⁵⁵vā¹¹pa²¹vā¹¹]

また、「xA 巴 A 型」の下位類には、「天 A 巴 A」というパターンもある。「天 A 巴 A 型」は「xA 巴 A 型」と同じく、「度外れ」などのネガティブなニュアンスを含んでいるが、長さや深さ、重さなどを表す形容詞しか修飾できないという使用制限を受ける。

天长巴长 [tʰi⁵⁵ɬiaŋ¹¹pa²¹ɬiaŋ¹¹] (とてつもなく長い)

天高巴高 [tʰi⁵⁵kəu⁵⁵pa²¹kəu⁵⁵] (とてつもなく高い)

天远巴远 [tʰi⁵⁵ye⁵³pa²¹ye⁵³] (とてつもなく遠い)

天深巴深 [tʰi⁵⁵ɬiei⁵⁵pa²¹ɬiei⁵⁵] (とてつもなく深い)

天重巴重 [tʰi⁵⁵ɬiəŋ⁵³pa²¹ɬiəŋ⁵³] (とてつもなく重たい)

天厚巴厚 [tʰi⁵⁵zy⁵³pa²¹zy⁵³] (とてつもなく厚い)

天大巴大 [tʰi⁵⁵da¹³pa²¹da¹³] (とてつもなく大きい)

4.4 蔡橋方言・状態形容詞の文法機能

以上のような状態形容詞は、修飾成分(x)が形容詞(A)の前に置かれるか、それともその後ろに置かれるかによって、表16のような2パターンに分けられる。

表16 蔡橋方言・状態形容詞の分類

分類	形式	語例
I 類	xA, xAxA, xA 巴 A	飞红、令尖、飞红飞红、令尖令尖、飞红巴红、令尖巴尖
II 類	AA, Axx	麻麻、花花、大大、热和和、圍踢踢

このうち、(I 類)はすべて修飾成分が形容詞の前に置かれるパターンである。(II 類)には、修飾成分を持たない「AA 型」と修飾成分が形容詞の後ろに置かれる「Axx 型」がある。このような構成上の相違は文法機能の上にも反映している。

1) II 類は連述修飾語になることができるが、I 類はなれない。

(37) (I 類) *飞红里红刮

(真っ赤になった)

(38) (I 類) *令尖里削起

(鋭利に削られている)

(39) (II 類) 碎碎里切起

(細かく切っている)

(40) (II 類) 横横里放起

(横に置いている)

(41) (Ⅱ類) 闪闪里坐起 (斜めに座っている)

2) I類もⅡ類も述語や状態補語、連体修飾語として使える。この場合、I類は語尾“里”を伴わないが、Ⅱ類は語尾“里”を伴う必要がある。

a. 述語の場合

- (42) (Ⅰ類) 果只柑子纠酸 (この蜜柑は非常に酸っぱい)
 (43) (Ⅰ類) 米个人个下巴令尖巴尖 (その人は顎がとがっている)
 (44) (Ⅰ類) 果个菜飞咸巴咸 (この料理は塩辛すぎる)
 (45) (Ⅱ類) 每只狗麻麻里崽 (その犬は灰色で所々に斑点がある)
 (46) (Ⅱ類) 己屋里个猫、花花里崽 (彼の猫はいろいろな色が混じっている)
 (47) (Ⅱ類) 几大趴趴里 (彼は体型が大きい)

b. 状態補語の場合

- (48) (Ⅰ類) 脸晒得飞红巴红 (顔が日焼けで真っ赤になっている)
 (49) (Ⅰ類) 行得飞快 (とても速くあるいている)
 (50) (Ⅱ類) 一只肚子吃得圆踢踢里 (いっぱい食べてお腹がまるくなっている)
 (51) (Ⅱ類) 屋里烧得热和和里 (室内は炭火で暖かくなっている)

c. 連体修飾語の場合

- (52) (Ⅰ類) 飞快个火车 (速く走っている列車)
 (53) (Ⅰ類) 天长巴长个衣袖 (とてつもなく長い袖)
 (54) (Ⅱ類) 圆踢踢里个肚子 (丸く突き出したお腹)
 (55) (Ⅱ類) 黄澄澄里个油菜花 (黄色い菜の花)

5. おわりに

以上、蔡橋方言の接辞、名詞の重疊形、形容詞の語構成などについて記述した。蔡橋方言は湘方言の古い特徴を多く保持する“老湘語”に属する方言であり、単音節語を長沙方言などの“新湘語”より多く保存している。また、動物の性別を修飾する形態素“公”、“牯”、“娘”、“婆”が接尾詞として動物名詞の後ろにつくことから、典型的な南方方言の特徴を持っていると言える。一方、名詞の重疊形が豊富である点において西南官話に似た特徴を持っている。今後は動詞、助数詞、副詞などの品詞についても記述を行っていく予定である。

参考文献

<中国語文献>

- 鮑厚星・陳暉 (2005) 「湘語的分区 (稿)」『方言』第3期
 鮑厚星 (2006) 『湘方言概要』湖南師範大學出版社
 陳克炯 (1978) 「『左傳』復音詞初探」『華中師院學報』第4期
 儲澤祥 (1998) 『邵陽方言研究』湖南教育出版社
 黃伯榮 (2001) 『漢語方言語法調查手冊』廣東人民出版社

- 侯精一 (2002) 『现代汉语方言概论』 上海教育出版社
李如龙 (2001) 『汉语方言的比较研究』 商务印书馆
李如龙 (2007) 『汉语方言学 (第二版)』 高等教育出版社
梁德曼 (1982) 『四川方言与普通话』 四川人民出版社
卢小群 (2007) 『湘语语法研究』 中央民族大学出版社
罗昕如 (2006) 『湘方言词汇研究』 湖南师范大学出版社
Richard VanNess Simmons・顾黔・石汝杰 (2006) 『汉语方言词汇调查手册』 中华书局
邵阳县志编纂委员会编 (1993) 『邵阳县志』 社会科学文献出版社出版
邵阳县志编纂委员会编 (2002) 『邵阳县志 (1978—2002) 送审稿』
邵阳县人民政府・中共邵阳县委 (2006) 『邵阳县统计年鉴・2006』
王力 (1980) 『汉语史稿』 中华书局
詹伯慧主编 (1991) 『汉语方言及方言调查』 湖北教育出版社
张则顺 (2006) 「论湖南武冈市区方言的语法特点」 『邵阳学院学报 (社会科学版)』 第5卷
赵元任 (1979) 『汉语口语语法』 商务印书馆
朱德熙 (1982) 『语法讲义』 商务印书馆

<日本語文献>

- 牛島徳次・香坂順一・藤堂明保編 (1967) 『中国文化叢書1 言語』 大修館書店
太田辰夫 (1958) 『中国語歴史文法』 江南書院
橋本萬太郎 (1978) 『言語類型地理論』 弘文堂
王振宇 (2008) 「蔡橋方言における母音の変遷について」 『地域政策科学研究』 6号. 鹿児島大学人文社会科学部
科学研究科
王振宇 (2009) 「湘語蔡橋方言の音韻体系」 『Polyglossia』 Volume 17. 立命館アジア太平洋研究センター

謝辞 本稿の執筆に当たり、ポリグロシア編集委員会の皆様から有益なコメントを頂きました。
心より感謝申し上げます。